

日本に宿泊 中国人首位

昨年、ビザ発給緩和で

日本を訪れる中国人が2010年は大幅に増えた。日本国内の宿泊施設に泊まった外国人客はのべ2602万人。そのうち中国人が17%を占め、07年の調査開始以来初めて首位に立ったことが観

光庁の調べでわかった。中国人は短期滞在が中心だが、観光ビザの発給案件緩和や経済関係の強化で、観光・ビジネス客ともに堅調に推移した。

従業者数10人以上のホテルや旅館に滞在した外国人の宿泊数を集計した。上位は中国に次いで、韓国（16%）、台湾（13%）などアジア勢が占めた。ただ、11年は東日本大震災で来日する外国人数は減少している。